

図書館 だより

泗水図書館 ☎ 0968 (38) 6866
 中央公民館図書室 ☎ 0968 (25) 1672
 七城公民館図書室 ☎ 0968 (25) 1580
 旭志公民館図書室 ☎ 0968 (37) 3111
 内線 303

閉館日・閉室日

泗水図書館 月曜日・月末・祝日
 中央公民館図書室 火曜日・第1日曜日・祝日
 七城公民館図書室 日曜日・祝日
 旭志公民館図書室 日曜日・祝日

菊池市図書館ホームページ <http://www.kikuchi-lib.jp/>

司書のつぶやき

夏の暑さも一段落。「読書の秋」
 がやってきました。ホタル



新着・お薦め図書

泗水図書館

夢の歌から 津島佑子 著
 陸王 池井戸潤 著
 最強の経営者 高杉 良 著
 ジニのパズル 崔実 著
 「本の寺子屋」が地方を創る「信州しおじり 本の寺子屋」研究会 著
 毎朝、服に迷わない 山本あきこ 著
 なきむしごぞう 今村章子 作
 まよいが(えほん遠野物語) 京極夏彦・近藤薫美子 文・絵

中央公民館図書室

コーヒーが冷めないうちに 川口俊和 著
 ジャッジメント 小林由香 著
 千年ジュリエット 初野 晴 著
 死の舞い 佐伯泰英 著
 フリージング幼児食 川口由美子 監修
 キキに出会った人びと 角野栄子 作
 ようこそなぞなぞしようがっこうへ 北ふうこ 作

七城公民館図書室

サラリーマン川柳むちゃうけ傑作選 NHK出版 編
 主夫の tomorrow 朱川湊人 著
 うたたねネックとネムのくに 野田道子・太田朋 作・絵
 しかけがいっぱい! 紙でつくる楽しいお家 ムラバヤンケンジ 著

旭志公民館図書室

希望荘 宮部みゆき 著
 「ありがとう」がエンドレス 田口ランディ 著
 ぼくらはうまいもんフライヤーズ 岡田よしたか 作
 小学生の勝つ剣道 苦手克服の強化書 鈴木 剛 著

こんにちは

中央公民館図書室です!

中央公民館図書室は、本や雑誌・紙芝居など約3万冊を所蔵しており、小さな文字が苦手な人には日本文学の名作を大きな文字で読める「デカ文字文庫」をお薦めしています。また、読み聞かせボランティアに活用できる「大型絵本」をはじめ、「紙芝居」も多数用意しています。

毎週土曜日には、「きくちおはなしのもり・おはなしかい」や「中央おはなし会」「中央おたのしみ会」を開催しています。9月の中央おたのしみ会は「秋のぬりえ」です。

中央公民館のとなり1階にあります。

みなさまのお越しを司書一同お待ちしております!!

耳より情報

七城公民館図書室 イベント

●本を借りてガチャガチャを回そう!
 七城公民館図書室で本を借りるとガチャガチャが回せます。アタリが出たらすてきな賞品ゲット!

期 間 9月30日(金)まで
 対 象 期間中に七城公民館図書室で本を借りた人



七城公民館図書室 おはなし会

毎月第2土曜日に変更しました。図書室の司書が時期に合わせた絵本や紙芝居の読み聞かせをします。誰でも参加できますので、ぜひ遊びに来てください。

と き 9月10日(土) 午後2時～
 と ころ 七城公民館図書室 絵本コーナー



万句の里俳句会 7月例会

天辺に一花ひっそり夏椿 松永 久子
 釣糸を切って逃げしは濁り鮒 中路 郁子
 老の身に暑き厳しき日となりし 稲田 羚子
 遺影ふと語るが如し夏の宵 宮本 敏子
 合鴨のなだれ込んだる青田かな 光本とよいち
 月下美人せめてひと日を昼に咲け 藤本アツ子
 ベランダに花咲く布団梅雨晴れ間 五丁 義昭
 被災地にバルーンが上がる梅雨晴れ間 寺本 和子
 一尺を歩みて憩ひかたつむり 藤本 邦治
 氣取らずに真直ぐに咲いた葵かな 服部 静子

旭志文芸教室俳句の会 7月詠草

古里は淋し懐かし木下闇 芹川 蓉子
 夏帽子かぶり直して一休み 水谷 ミネ
 濁流のすこき響きや昨夜の雨 芹川のり子

肥後狂句水笑会 7月例会

再確認 鍵はたしかにかけたろか 中島 五女
 あくしゃうつ 盆玉袋売つてある 小崎 海美
 ぼけたろか 又朝飯ばほしゆった 柏原 乗仏
 いそがしさ 一晚のうち伸びる草 御手洗三代
 再確認 地震雷火事嫁ご 山隈 好茶

七城短歌会 7月詠草

今年又提灯並べ灯を点すなりし日の 緒方 寛子
 夫の面影しのび 緒方 寛子
 梅雨晴れ間たまりし仕事の二つ三つ 先ずはハウスの換気を急ぐ 緒方 正俊
 クルクマと云う名の花が開きたり供 花にせむとて鉄持ち立つ 高木 精
 ばっさりと枝落とされる泰山木木戸の 辺明るき空戻り来し 池田カツ子
 山崩れに遭難したるか学生は車もろとも不明の三つき 嶋田 晴美

「里」短歌会 7月詠草

巡洋艦「羽黒」と共にペナン沖沈み 林 淑子
 し兄は吾孫と同年二十三歳

さわか大学文芸クラブ 7月歌会

古里に肩組み合ひし幼友何時か文絶 え菜実の実熟るる 山下 菊代
 病む我を置き去りにして緑増ゆ今年 山代 静子
 はるばるとひとすじの道辿り来ぬド レス纏ひて唄ふ「悲しい酒」 中川 愛子
 東京にて妹と求めしロングパンツ着 くをためらふ菊池に戻り 山田 弘子
 鈴生りの熟れしトマトをちぎりある 雨の降る中花摘む如く 安東 綾子

菊池短歌会 8月詠草

梅雨明けの木立の陰に身を隠し蝉の 時雨が降りそそぎ来る 川口 幸臣



ポケットより転がり落ちし五百円玉 疲れたと伏す夫に寄り添ふ 安藤 則子
 山っ気の抜けぬわれなり今さらに喜 寿を迎へてくじ買はんとす 古賀 勝士
 黄昏の遠街の灯やふるさとはどこ にもあらぬ尋めゆくものに 奴留湯健蓉
 行く先を蟹は横切りミミズ這ふ蛙跳 ねゆく山越えの道 林 まつ子

文芸 きくち